

「ほめる」を継続し、「できた」を増やす夏に

神石小学校長 田丸 栄

今年の夏は、昨年・一昨年とは、違う夏となっています。子ども達が待ち望んでいた「水泳」の授業があるからです。少し水を怖がっている低学年の子ども達。今だと言わんばかりに、どんどん泳ぎを進める中・高学年の子ども達。時には、息継ぎをすることがしんどそうになる子どももいますが、皆、プールから上がると、満足そうな笑顔を浮かべています。それは、水泳をしているときに、子ども達は、先生から少しずつ「できるようになったこと」をほめられるからです。すると、子ども達は、少しくらいしんどくても、また次へのステップに挑戦していきます。

ふだんの生活でも、そんな「できた」が見られます。一学期の間、私は、全校朝会の時に、「礼」のことを子ども達に話してきました。司会や学級代表の人など、前に立って言う人が「礼」をすると、はじめは、高学年の（特に六年生の）何人かの子どもが、「礼」を返していたのです。そのことを全校の前で紹介すると、だんだんとその「礼」の輪が広がり、今ではほとんどの人が、司会が「礼」とは言わなくても、「礼」ができるようになってきているのです。もちろん、「礼」には、「相手に対する心づかい」が表れていることだということも合わせて話していきました。

また、先日、来客があり、授業風景を見られたときのことで。ある学年の子どもがプリントを後ろに渡すと、渡してもらった子どもが「ありがとう。」と言ってプリントを受け取っていた姿を見て、「相手意識をもち心が通い合うとてもよい姿だった。」とだけ言っていました。これも、担任が、根気よく子ども達の素晴らしい行いをよく見つめほめていった成果だと思います。

いよいよ、長い夏休みに入ります。子ども達は、家庭や地域で過ごすことが多くなります。子ども達の素晴らしい面をしっかりと見て、「ほめる」ことを継続していただき、子ども達の「できた」が増え、成長していくような夏休みになれば幸いです。

